

東海津城大子

津門西南之方石垣

内府以修後也願

修固并下給固奉書

其意誠之也又月下

修固書有等見合

出之書下事お調

之月水三換加反

遠江宿の合口見張

上り之津右筆垣頭

新村伴三進張の八月

八日會同書在の掃糸

四日去平河の起岩味

少成の口直其乃の漢

相胡為白伴三進取
以俗利通出書有
武通胡堂之且示
沙用書法也知法書
中胡人信之進取也
十有金為持素然
出月如巖河奔急也
明日沙用書法也
若書之法也知法
知素平之清法圖也
書有二通也知法圖
以用書法也知法
沙用書法也知法
夫舍而所為法也
若以清法也知法
若書之法也知法
以換取也之也法也
一以舟也日清奉書
出波の波也知法也
居人素之也知法

正徳九年八月
去春の所を陽平人
と云ひ清治の成り
當るの如く建白

以後扱上之の成り
一昨井田日清奉書
以後の成り方同
居る人未之の成り
清用の中中一員
成るに成り成り
用人石原清治
成るに成り成り
清用名清治書成
以後の別清治書成
清用名清治書成
以後の別清治書成
清用名清治書成
以後の別清治書成
清用名清治書成
以後の別清治書成
清用名清治書成
以後の別清治書成

此卷書中... 右

此卷書寫... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

此卷... 矣

秋月依波を懐くは
水に依りて友を道に
出づる居るを以て
千冊を
一石直出河内河津

中書書并心連と
出修補の事なるが
築出城と當年
貞永うけ治務と
次より修後の治務の
石垣築出お漸の上
公義の治務と及不
ゆの治務方はえむ
らぬの治務の

一平海が治務の治務圖
下治務を打取掃
り中一の治務外は治務
云々の治務有るお潤
治務進取を以て治務
治務の治務なる

切まのりてん

上質入のり

以所法の方知るる

法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

有之のり

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中法を以て陳むる

中野の山に雲がたもたもた

ふたつとつとつとつとつとつ

法界の心はつとつとつとつ

いふことばはつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつ

[Faint, illegible handwritten text on aged paper, possibly bleed-through from the reverse side.]

Blank manuscript page with faint bleed-through from the reverse side. The bleed-through text is illegible but appears to be organized into columns.





元文四年
藤原氏

